



# 双子の子育て奮闘記

会員 中村 裕也 (61期)



まず、題名であるが、本来ならば「妻の双子の子育て奮闘記」が正確だろう。日々奮闘している妻にはこの場を借りて感謝を述べたい。

**1** 子供が欲しかった私たちにとって妻の妊娠はとても喜ばしいことであると同時に、双子妊娠という事実はあまりに衝撃的だった。私には双子の父親になるということの実感が全くなく、不安ばかりが押し掛かった。

我が子らは双子ということもあり、通常よりも若干小さく産まれたが、全身を使って精一杯産声を上げており、愛おしいという気持ちが自然と湧き上がった。これがいわゆる父親としての実感なのだと思う。

**2** しかし、双子との生活が始まり、そんな実感も吹っ飛ばすような怒涛の子育てが始まった。とにかく双子は寝なかった。当初は、午前3時を過ぎなければ寝なかった。一人が寝てももう一人が起き、もう一人が寝たと思ったら寝ていた一人が起き出すことも多く、親はほとんど眠れなかった。ようやく寝ても、1、2時間もすればどちらかが目を覚ました。これが連日続いていたため、妻も私も慢性的な寝不足であった。この頃は、夫婦ともども精神的に疲弊しており、家にいることがストレスになることもあり、双子を寝かしつけるために夜な夜な散歩に出て、コンビニで夜食のカップ麺を買ったこともしばしばあった。今となってはいい思い出であるが、もう戻りたくない生活である。

この頃はあまりの睡魔に執務中に寝てしまうこともしばしばあった。いや、むしろ事務所が落ち着いた寝ることができる場所であったといっても過言で

はない（事務所の関係者、特にボスがこの記事を読んでいないことを願う。明日も私の机はあるだろうか…）。

**3** 双子をお風呂に入れるためにはどうしても人手が必要である。私は毎日双子が寝る時間を考えて早めに帰宅させてもらい、妻と連携して二人をお風呂に入れて寝かしつける生活をしている。早く帰宅している分、子供を寝かしつけた後に家で仕事をしている。また、双子の一人が風邪をひいて病院に連れていく場合にも人手が必要であるため、事務所に出勤する前に病院に連れていかなければならないこともある。一人が風邪をひくと大抵もう一人にもうつってしまうので事務所には大変な迷惑をかけている。

このような生活を送ることができるのは、何といても事務所の理解があるおかげである。実は、我がボスも双子の父親であり、しかも男の子4人を育てた経験がある。そのボスの事務所であるので、子育てに関して寛容であることが本当にありがたいことである。

**4** 双子は現在1歳4か月になろうとしている。産まれた頃に比べれば、寝るようになり、二人で遊んでくれる時間が増えた。とはいっても、双子は歩くことが楽しくて仕方がない様子で、二人別方向に歩きだし、戻ってくるときには正面衝突するなど、より目が離せなくなってしまった。双子を育てることはとても大変で、正直ストレスがたまることもあるが、双子のかわいさは格別である。双子の笑顔等を見ると、とても幸せを感じる。その幸せがあるからこそ、双子と毎日格闘し続けることができるのである。

今後も私（というよりも妻）の奮闘は続く。